

# 農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

地域の農業を守り、楽しく元気な地域づくりを目指す！

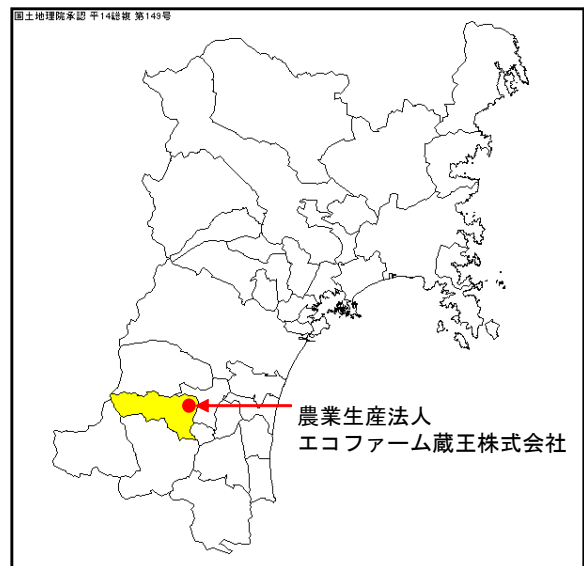
受賞者 のうぎようせいさんほうじん 農業生産法人エコファーム蔵王株式会社 ざおうかぶしきがいしゃ  
みやぎけんかつたぐんざおうまち  
(宮城県刈田郡蔵王町)

## ■ 地域の沿革と概要

蔵王町は、宮城県の南西部に位置し、町域の約6割が山林・原野が占めている。町の中央を松川が貫流し美しい渓谷の景観を作り出し、蔵王連峰に連なる高原地帯には貴重な野鳥などが生息し、自然の宝庫となっている。町の東部は良好な水田地帯であり、丘陵地を利用した梨などの果樹栽培も県下の生産量を誇っている。

また、高原育ちの新鮮な牛乳から作られるチーズなどの乳製品は、品質の良さから全国的に人気がある。観光面では県内有数の名湯遠刈田温泉とがったを有し、毎年数多くの観光客や湯治客が訪れている。東北自動車道や東北新幹線など広域交通高速網の整備に伴い、高付加価値産業の振興を積極的に進めている地域である。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

エコファーム蔵王株式会社が所在する平沢地区は、蔵王町の北東部に位置しており、整備されたほ場を活用した秋そばの集団転作や農地集積による水稻、大豆、野菜等の経営面積の拡大を図るとともに、農産物直売所を活動の拠点とした栽培技術・農産加工の研修会や交流イベントの開催を行っている。

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	機能的な集団等	
農家率 (内訳)	33.1%	
	総世帯数	3,890戸
	総農家数	1,288戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	153戸
	1種兼業農家	119戸
	2種兼業農家	674戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	15,398ha
	耕地面積	2,356ha
	田	976ha
	畑	1,380ha
	耕地率	15.3%
	農家一戸当たり耕地面積	1.8ha

H22宮城県蔵王町のデータ

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

#### ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

エコファーム蔵王株式会社<sup>えん だ</sup>が所在する蔵王町平沢地区は、平成11年度から県営ほ場整備事業<sup>えん だ</sup>円田2期地区に着手した。平成15年3月に、ほ場整備地区の担い手として農地集積を図りながら地域農業を守るとともに、稲作に限らない農産物の生産、販売活動を展開するため、北部営農生産組合（組合員10名）を設立した。設立当初は、ほ場整備事業の工事区域に転作として、秋そば7.7haを栽培した。

#### イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

平成16年3月には北部営農生産組合に新たに11名の組合員が加入し、将来ビジョンを明確にして、余剰金の積立等による効率的な機械や施設の整備を行うために、平成17年9月に法人化検討委員会（委員14名）を設置した。

#### ウ 現在に至るまでの経過等について

平成18年9月に、1年間の検討を経て北部営農組合を発展的に解散し、資本金770万円、構成員13名により「地域の農業を守り、楽しく元気な地域づくりを目指す！」をスローガンに「農業生産法人エコファーム蔵王株式会社」を設立した。

法人内部の役割分担・経営責任を明確化し、法人が地域農業の担い手として農地集積を図りながら地域に貢献するという長期ビジョンを描いた。

また、法人運営及び経営所得安定対策に対応した事業展開を図るため、翌平成19年6月には自社の販売戦略の柱として、自社農産物及び地域農産物の販売拠点として「産直市場みんな野」を開設した。

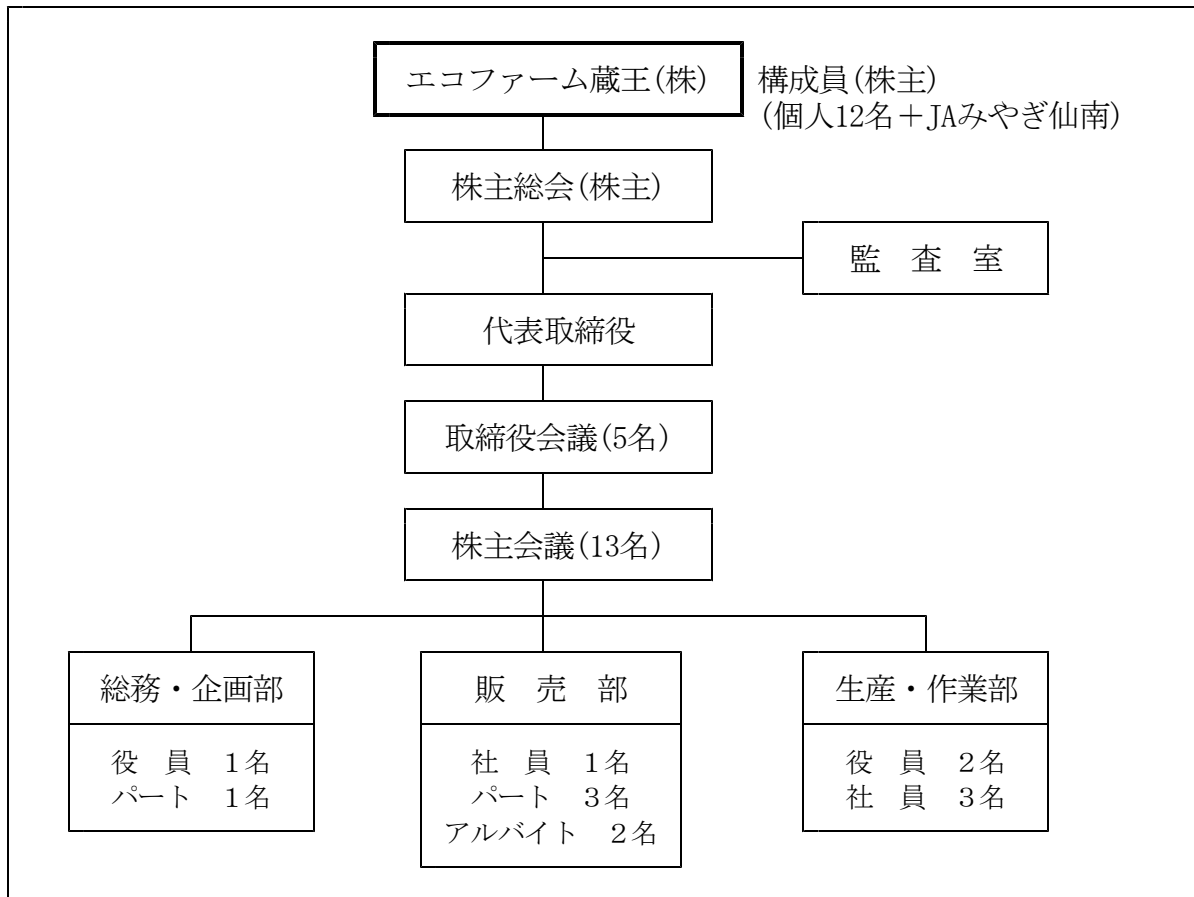


写真1  
「産直市場みんな野  
来客70万人達成！」

### (2) むらづくりの推進体制

エコファーム蔵王株式会社は稲作、果樹、畜産等の農業経営を行う個人株主12名にみやぎ仙南農業協同組合を加えた13名により構成されている。代表取締役の下、取締役5名を配し、会社運営は、総務・企画部、販売部、生産・作業部の3部体制を組織している。

第2図 むらづくり推進体制図



ア 組織連携によるむらづくり

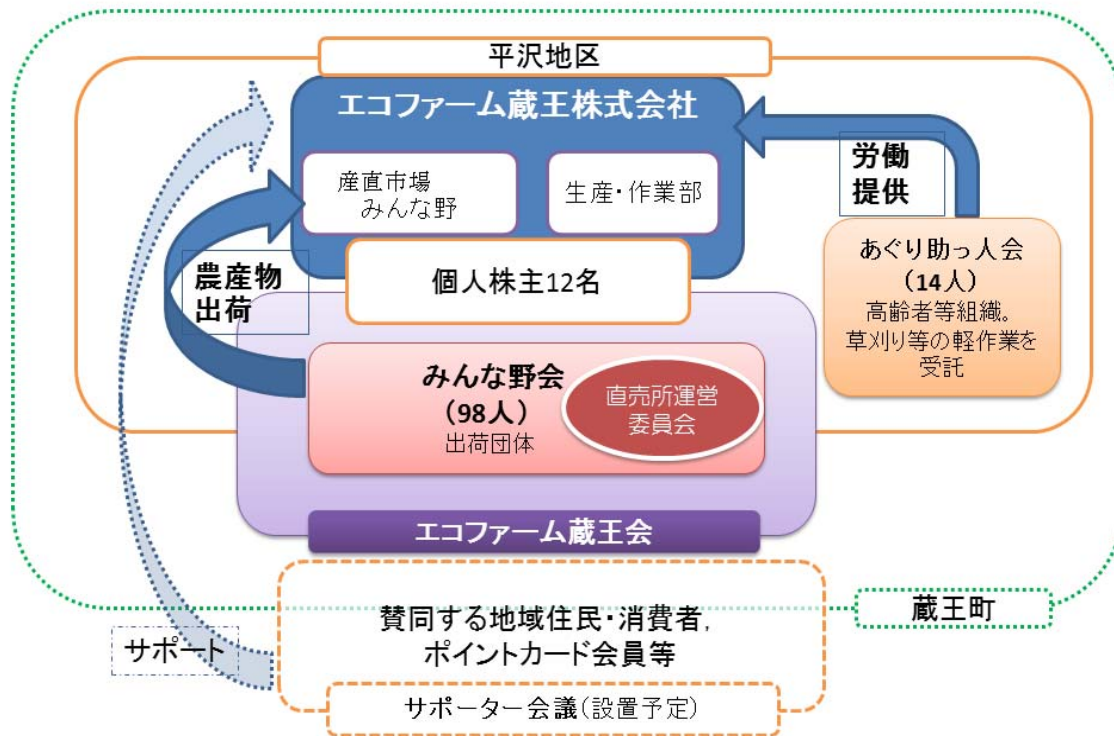
エコファーム蔵王株式会社を支える組織は大きく2組織となっている。  
(第3図参照)

「エコファーム蔵王会」は、個人株主12名と産直市場みんな野に農産物等の出荷登録している町内農業者98名による「みんな野会」の110名で構成されている。「みんな野会」では、毎月開催している研修会や会議を企画運営する「直売所運営委員会」を設置し、構成員から選ばれた20名が担当している。

もう一つの支援団体としては、エコファーム蔵王株式会社の生産・作業部会の直属組織として、草刈りやそば生産等の軽作業を担う「あぐり助っ人会」があり、その構成は地域の高齢者等14名となっている。「あぐり助っ人会」は人手の足りない時の、文字通り「助っ人」として会社の支えとなっている。

また、蔵王町農林観光課と連携し、東京都葛飾区の産業まつりに参画し、町特産の日本梨や新米を始めとした農産物販売や観光PRにも努めている。

第3図 エコファーム蔵王株式会社を支える組織



### イ むらづくりへの賛同者の確保に向けて

エコファーム蔵王株式会社及び産直市場みんな野の事業に賛同する地域住民や消費者、ポイントカード会員(現在約2千人)を対象に「サポーター会議」を設置し、イベント開催を通して地域づくりを応援するサポーターを育てていく計画である。

## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

蔵王町平沢地区は、農業の担い手不足や高齢化が問題となり平成11年に始まったほ場整備事業を契機に、稲作を担い手に委託する農家が増加している。エコファーム蔵王株式会社は平成18年に「地域の農業を守り、楽しく元気な地域づくりを目指す！」をスローガンに設立され、環境と調和の取れた水稻栽培や「産直市場みんな野」開設に取り組み地域の活性化に貢献している。

また、地場農産物を活用した蕎麦打ち教室や漬物教室など、年間を通して様々なイベントを開催し、消費者や住民の交流拠点ともなっている。

エコファーム蔵王株式会社及び産直市場みんな野の事業に賛同する地域住民や消費者、ポイントカード会員(現在約2千人)を対象に「サポーター会議」を設置し、イベント開催を通して地域づくりを応援するサポーターを育てていく計画があるなど、地区全体で地域づくりに取り組んでおり、これからの地域農業の担い手として、積極的に活動している。

### 2. 農業生産面における特徴

## ア 当該集団等の農業生産、流通面の取組状況

地域農業の担い手として18ha（水稲15ha・大豆1ha、そば2ha）を担っている他、効率的な施設利用のため、水稲育苗ハウスを活用した新規事業への取組として西洋野菜（タルディーボやプンタレッラ等）の栽培を開始し、農協を通して市場出荷している。

また、水稲栽培における労力軽減を図るため、水稲湛水直播栽培に取り組み、平成18年に0.5ha（カルパー）から平成27年には3ha（鉄コーティング）へと取り組みを拡大している。

## イ 品質向上と6次産業化への取り組みと波及効果

県南地域で課題となっている斑点米対策として、平成23年に色彩選別機を導入して米の出荷品質の向上を図っている。これにより自社生産米は全量が一等米となったほか、近隣農業者に対しても色彩選別作業を500袋（30kg袋）、フレコンバック10袋（1t袋）を受託し、地域としての良質米生産・販売に貢献している。

また、平成24年5月に六次産業化・地産地消法に基づく事業計画の認定を受け、9月には6次産業化総合整備事業により精米ライン施設を整備し、外部委託していた精米工程を自社加工へ転換した。

さらに、自社生産米を「蔵王源流米」と名付け、ロゴマークを商標登録し、商品アイテム（少量パック、無洗米等）を増やすことにより、ブランド米として直売所のほかに、新たにインターネット販売にも取り組んでいる。

直売所、インターネットオンラインショップでは「蔵王源流米」の他、自社生産した大豆を原料とした味噌、自社生産したそばを扱っており、近隣の消費地である仙台からの顧客が多くなっている。



写真2 「蔵王源流米」

## ウ 直売活動による地域の農業経営の改善、女性の経営参画の促進状況

エコファーム蔵王株式会社が運営する「産直市場みんな野」の出荷組織「みんな野会」の8割は女性が担っており、直売所運営委員会が毎月開催する研修会等で販売状況や売れ筋商品、新規品目の栽培研修から最近の農業政策等、幅の広い勉強会を開催している。会員は消費者を意識して品目を選定することで、直売による収入の増加を目指している。

エコファーム蔵王株式会社の総務・企画部門には専従の女性パート職員を採用している他、直売部門は店長以外は女性パート3名と女性アルバイト2名で組織しており女性目線での運営を心がけている。直売部門では、みんな野会会員から提案された季節商品「春の七草セット」を試食販売する等、季節毎のイベントの企画・運営が行われ、顧客を呼び込むことに成功している。



写真3  
季節商品「春の七草セット」

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### ア 当該集団等の生活・環境整備面の取組状況

平成19年からは農地・水保全活動（現在の日本型直接支払交付金・多面的機能支払交付金活動）の新町地区ふるさと保全会と山の入区ふるさと保全会の構成員として活動するとともに、産直市場みんな野周辺を拠点として、春及び秋に花壇用苗物類の植栽を中心に環境美化活動に取り組んでいる。

#### イ 地域活性化のための地域組織や都市住民との交流等への寄与状況

蔵王町は町を含め教育委員会、観光物産協会、商工会、JAみやぎ仙南、<sup>とおがった</sup>遠刈田温泉協会や森林組合等の14団体を構成員とする蔵王町交流活動推進協議会を平成23年に立ち上げて、小学校児童を対象としたみやぎ蔵王山麓自然体験学校や各種団体を対象とした蔵王山麓自然の学び舎を行っている。

エコファーム蔵王株式会社の社長は当該協議会幹事会の幹事長や企画開発部会長として活動しており、今年度は5月15～16日に仙台市立郡山中学校2年生約200名を対象に平沢地区での田植え体験や、<sup>とおがった</sup>遠刈田の蔵王酪農センター「ハートランド」のバターづくり体験を受け入れ、新米を学校給食に提供する等積極的な活動を展開している。



写真4・5 仙台市立郡山中学校2年生の田植え体験風景